

# 令和4年度自己評価結果公表シート

庄本幼稚園

## I、本園の教育目標

<p>緑いっぱいの中                  おもいやりのある子ども                  自主性のある子ども                  明るく、正しく、素直な心の子どもの目指して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣を身につける。</li> <li>自然に対する関心を抱かせる。</li> <li>丁寧な保育をし、自立心を育てる。</li> <li>思いやりのある子ども、楽しい子どもに育てる。</li> <li>行事や活動から生まれる達成感や感動を体験する。</li> </ul>
--

## II、本年度、重点的に取り組む目標と計画(PLAN)

<ol style="list-style-type: none"> <li>1、非認知能力の向上(行事や活動において)</li> <li>2、コロナ禍2年目における健康管理</li> <li>3、安全への配慮</li> <li>4、教師としての資質の向上</li> </ol>
---

## III、評価項目の達成及び取組状況(DO)

評価項目	取り組み状況
1、行事や活動における非認知能力の向上	ア、個人の能力や場面に応じた配慮と興味を引き出す環境構成に心がけた。具体的には運動会やおゆうぎ会の練習の前に多くの楽器に触れる機会をつくり、希望の楽器があれば申し出てもらう。子ども同士で教えあう機会を作った。
ア、意欲、チャレンジ力	イ、用意や片付けを友達の分までするよう声掛け、困っている友達の手伝いもできる園児が増えてきた。周りの状況に気が付きにくい園児には声掛け、作品展では、協力して一つの作品を作ることに気付かせる、運動会では、皆で協力して一緒に頑張ることに気付かせる。相手に気持ち、思いを伝えたり協力することの大切さに気付かせる。
イ、協調性、思いやり、協力、	ウ、文字や製作の時間に集中して取り組みができた。待つことをできたこと、少しでもできた時に褒める。
ウ、忍耐力、集中力	エ、思考力、判断力
エ、思考力、判断力	オ、自立心、感謝の心
オ、自立心、感謝の心	エ、絵本を使い、絵本に載っていない質問をする。自由遊びの時間では廃材を置くと自分で製作をし、楽器の練習、台本読み、文字の練習など、自分で考え、自分の時間を作り頼らずに自分で考えて行動することの面白さ、大切さ、何をすべきかどのように行動すれば、自分で考えるように、小さな取り組みも自信につなげていく。
2、コロナ禍2年目における健康管理	ア、登園時にクラスにかかわらず視診、表情を見てきた。挨拶することを心がけその際に体調の変化がないか、見るように。保育中も体調の変化に気付くように心がけた。
ア、登園時から保育時におけるコロナ対策	イ、行事対応
イ、行事対応	イ、昨年と同様、保護者参加を制限しながら実施できた。園児と保護者に寄り沿った形で実施できた。できることは同僚や保護者会と相談し対応し
3、安全への配慮	ア、週1回の遊具点検、遊び方の指導、死角の場所、保育士の立位置の再確認。
ア、遊具や施設の点検、使用時の監視	イ、欠席の伝達、相互連絡はとれていた。バスの乗降時忘れ物の確認、遠足やスイミング行の際の人数確認、スポット利用等運転手や添乗員との情報の共有。物置使用後電気、施錠等の確認。
イ、通園バス等での置き去り防止対策	ウ、避難訓練
ウ、避難訓練	ア、週1回の遊具点検、遊び方の指導、死角の場所、保育士の立位置の再確認。
4、教師としての資質の向上、	ア、感情的にならず先入観なく公平に対応できた。
ア、園児や保護者との対応は公平性に	イ、身だしなみ、挨拶、感謝の気持ち
イ、身だしなみ、挨拶、感謝の気持ち	ウ、清掃や整理を実行
ウ、清掃や整理を実行	エ、プライバシーに関する情報の保護
エ、プライバシーに関する情報の保護	オ、情報共有、職員間の協力、連携
オ、情報共有、職員間の協力、連携	カ、幼稚園教諭としての専門知識や技能の向上、
カ、幼稚園教諭としての専門知識や技能の向上、	キ、教師自身のコロナ対策
キ、教師自身のコロナ対策	カ、自分自身勉強、研修に積極的に参加、図書館やインターネットで調べる、オンライン研修は時間に束縛されないし、見直しができるのでよキ、マスクの着用、手指消毒、手洗いの徹底、園児が触れやすい所の重点的消毒、自身の体調の維持、

#### IV、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果(CHECK)

1、行事や活動における非認知能力の向上を目指して、

ア、意欲やチャレンジ力については、園児たちのやってみようとする気持ちを引き出させるよう環境構成をした。否定的、強制的にならないよう。イ、協調性や思いやりについては、うまく関わることができない園児に、まずは保育者と関わるように、周りの状況に気が付きにくい園児には声掛け、運動会では、みんなで力を合わせ一緒に頑張ることに気づかせる、少しずつ形になっていく喜びや、終わった後の沢山の笑顔が見られたことは協調性、協力の大切さを身体で感じることで出来たのであろう。ウ、忍耐力や集中力の向上については楽器演奏やダンスで繰り返し練習すること、集中することの大切さを身に付けたと思う。エ、思考力、判断力については、頼らずに自分で考え自分で行動するよう、出来るだけ見守るようにしてきた。オ、自立心、感謝、やりぬく力については日常の保育や行事の中で、自信を持ち、やりぬく力を身につけるために見守りを重視し、感謝の気持ちが言葉として、行動として素直に出るように指導した。2、コロナ禍2年目における健康管理。登園時にできるだけ言葉かけをし、園門で手指消毒をしながら子供の体調や顔色の観察を行った。保護者との連絡を密にした。保育中の部屋の換気、手洗い、消毒等にも心がけた。行事対応については昨年同様保護者参加を制限しながら実施できた。通園バス園児おきり防止については通常のバス送迎以外でも遠足や行事におけるバス利用、スポット利用などにおける人数確認、運転手、添乗員との情報連絡など徹底した。保護者へアンケートをしたところ、保育時間も長く、預かり保育が充実して、料金もリーズナブルであり共働きの人には有難い、保育内容も充実し色々なことを体験させてくれる。運動会での鼓隊演奏はとても良かった。ホームページなどでもっとPRをしたらどうか、小規模園ならではの学年を超えての交流や園児への対応も細かく魅力的な幼稚園。という意見を頂いた。

#### V、今後、取り組むべき課題(ACTION)

目標の一つである行事や活動における非認知能力の向上については全職員が十分に理解し実行できるよう意識の高揚に努めなければならない。また、常日頃から園児の性格や行動の把握、理解、保育者や保護者からの情報確保に努めなければならない。当園の様に小規模園こそ実行しやすいと思われる。園児の健康と安全については遊具、施設の点検や通園バスの対策を今後も緊張感を持ち続け行い、コロナ感染拡大についても引き続き気の緩むことなく感染防止に努めなければならない。

#### VI、学校関係者の評価

担任教諭の急な退職やコロナ禍で、教員の手配が大変だっただろうと推察する。そんな中、子どもたちが毎日楽しく充実した時間を過ごした。体調を崩さず頑張って頂いて感謝。行事や活動においては、その都度考え、話し合い、簡単に中止という選択しないで保護者の意見を取り入れながら実施してもらって感謝。家庭との連絡も適切に行われていた。子どもの個性をよく把握してきめ細かな指導も良好であると認められた。小規模園こそ可能な情報の共有化や一人ひとりに向き合ってモチベーションを上げる一言もよかった。今後とも保育者自身の感染予防にも気をつけてほしい。適切な言葉かけや励ましにより非認知能力の向上は確実で、評価は概ね妥当と認められる。衛生面、安全面において、今後とも気を緩むことなく緊張感をもって対応を、また、更なる家庭との連絡もお願いしたい。教員の負担軽減のため、小さなことでも少しずつでも見直しをしていけば、時間的、精神的に余裕ができ、保育の質、環境の向上につながる。

#### VII、財務状況

公認会計士監査により適正に運営されていると認められている。